



## 臨床研修を終えて —特定ケア看護師の複数配置を通しての学び—

台東区立台東病院看護介護部 特定ケア看護師4期生 榊 麻奈実

皆様、初めまして。今月担当させていただきます榊 麻奈実と申します。

私は、2020年3月にNDC研修を修了し、2021年4月より看護介護部に所属し、特定ケア看護師として活動させていただいております。

まず、私が特定ケア看護師を目指した動機についてお話しさせていただきたいと思います。私は、出身である青森県八戸市の病院で21歳より看護師として勤務後、27歳の時に上京し、台東病院での勤務は6年目を迎えました。周りからは、よく27歳で上京したねと驚かれますが、今思えば特定ケア看護師を目指した理由と通じるものがあると思います。それは、純粋に自分の思う看護をしたいと強く願い、行動を起こしたことです。上京する前の病院では、ICUがない中、病棟でPCPSやIABPを装着されている重症患者を受け持ちながら、通常の入院患者を受け持つなど非常に多忙な環境で看護をしていました。そんな中、業務をこなすことが精一杯で、自分のしたい看護ができていないことにジレンマを抱いていました。身も心も疲弊しているのを感じ、環境を変えようと思い立ったとき、当院の理念である『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します』という言葉に共感し、気が付けば上京していました。回復期病棟へ配属となり、急性期のその後の患者さんの姿を知り、患者さんの価値観や生活、希望に沿った看護というものを学び、看護師として成長できました。しかし、数年経つとまたジレンマが私を襲ってきました。それは、退院を目前にしていた矢先に、急変し治療のため搬送されたり、骨折など

によりADLが低下し自宅退院が叶わなくなってしまった患者さんの姿です。看護師として急変のサインに気がつけなかったのか、もっと何かできたことはなかったのだろうか、と思いました。そんな時、当院に診療看護師の筑井菜々子さんがいらっしゃいました。私が目指す看護師像は彼女のような看護師だ、と思いました。気がつけば、特定ケア看護師の門をたたいていました。

さて、前置きが随分長くなりました。無我夢中で1年の研修を終え、臨床研修が始まりました。当院では、今は退職されてしまいましたが2期生の岡田芳恵さん、3期生の細川信康さんに続き、3人目の特定ケア看護師となりました。先輩方の背中を見て、自分が目指す特定ケア看護師像について随分悩みました。臨床研修は、新型コロナウイルスの影響を受け、修了式が中止されたことで卒業の実感がなく始まりました。外来での研修もほとんど行えず、臨床推論がなかなか身につかない自身の状況に常に焦っていました。管理者、看護部長、指導医の皆様より、研修が充実したものになるためにはどうしたらいいか考えていただき、当院の老健での研修や指導医によるレクチャーなどさまざまな対策、支援をしてくださいました。それでも、月1回開催の「卒後藤谷塾」というカンファレンスでは、3期生の先輩や同期の知識との差にいつも焦りを感じていました。自分はこれだけ周りにサポートしていただいているのに、特定ケア看護師として使える人材になれないのでは、いつも思っていました。そんな時、いつもそ



褥瘡回診の様子

ばで見守り，アドバイスをくださったのは特定ケア看護師の先輩，細川さんでした。「特定ケア看護師は，みんな同じじゃなくていいと思う。もちろん最低限の基礎知識はみんな一緒じゃないといけないけど，急性期に強い人もいれば，慢性期に強い人がいていいと思う。JADECOMは病院から診療所まで幅広いのが強みだから，活動する場所でみんなに助かったと言ってもらえればいいんじゃないかな」。

その言葉に，はっとしました。そうか，台東病院で必要とされる活動を探して，精いっぱい頑張ればいいんだ。そう思ってから，臨床研修として習得すべきことと同時に，台東病院の特定ケア看護師として必要なことを考えることができるようになりました。もっと現場の声を聴こう，もっと全体を見渡そう，そう思えました。それから，医師，看護師から「榊さんが来てくれてよかった，いてくれて助かった」と言っていただけが増えました。まだまだ未熟な身ですが，少しずつ特定ケア看護師として活動できているのかな，と感じます。

地域医療振興協会内でも，特定ケア看護師がいる所は少なく，複数配置している所はさらに少ないです。特定ケア看護師は，いわば医師と看護師をつなぐ架け橋のような存在だと私は思います。それ故に孤独感を感じる事が多く，



台東病院NDC3期生 細川さん(左)と4期生 榊(右)

モチベーションの維持がとても難しいです。複数配置は，同じ悩みや不安を共有し，話し合えることができたことがメリットの一つだと思います。また，特定行為や特定行為ではない部分の介入を，複数配置であれば分担して行うことができ，患者さんにタイムリーに介入できます。特定ケア看護師は，看護の上で必要な医学的知識や技術を研修で習得している看護師です。手技屋さんでもなければ特別な資格取得者ではないのです。ハイリスクな患者さんの入浴や離床，リハビリ，看護処置などを現場のスタッフが安心して行えるように一緒に行い，知識や技術を伝える役割だと私は思います。

私の特定ケア看護師としての活動は始まったばかりですが，これからも精進し，常に謙虚でいつも笑顔を絶やさず，声をかけやすい人であり続けようと思います。そして，私が筑井さんと出会って感じたように，特定ケア看護師になりたいと思ってくれる方が一人でも増えるといいなと思っています。